

【質問事項】

分野	項目	内 容	資料番号	備考
治水について	手取川の治水計画について	今年、新潟や福井では短時間に記録的な集中豪雨が発生し、大きな被害が発生している。あのような豪雨を考慮して計画されているのか、また、手取川はどれくらいの降雨があると危険になるのか説明の事。	資料 - 2 基本高水について 頁9-12	長谷川委員 三田委員 米田委員
		既往洪水での手取川ダムや大日川ダムの効果と治水計画上の考え方を説明の事。	資料 - 2 基本高水について 頁7-8	中川委員
		S9年Qp=4,080m ³ /sは小さいのではない、精査が必要である。	資料 - 2 基本高水について 頁14-17	永井委員
	河道内の植生の影響について	新潟・福井出水でも、川の中の植生が悪影響を及ぼしていた可能性がある。手取川も川の中の植生が徐々に繁茂しつつあるが、生態系への配慮も必要である。川の中の植生が繁茂した場合、または逆に伐採した場合に治水上、どこにどの様な影響があるのか説明の事。	資料 - 6 河道内の植生の管理について 頁2-4	玉井委員 長谷川委員
	手取川の土砂動態について	河床低下・天井川区間・ダムの堆砂等、土砂の問題は流域全体の課題である。流域の土砂管理をどうしていくのが重要であり、現状を踏まえ検討していく必要がある。	資料 - 7 土砂動態の現状	玉井委員 古池委員 三田委員
環境について	手取川水系の水質について	地下水質について、もっと広域的、経年的な評価が必要である。評価指標については、DOではなく、塩素・窒素濃度などを用いることも検討の事。	資料 - 3 手取川扇状地の地下水位の動向 頁23-25	池本委員
		濁水だけではなく、水質（河川水・地下水）に関する課題は外にもある。例えば、ダムの水質悪化を防ぐ事も課題である。	資料 - 4 水質の現状	池本委員
		今年の手取川の水は濁りが引かない。生態系や漁業等の利用面でも影響が出ている。原因を究明し、対策を実施して欲しい。検討にあたっては、濁水により影響を受けるものをよく見極めた上で検討の事。	資料 - 5 平成16年 手取川の濁水の現状	富樫委員 宮崎委員 三田委員 米田委員
	手取川扇状地の地下水のについて	手取川扇状地内の地下水位の経年変化の現状を説明の事。	資料 - 3 手取川扇状地の地下水位の動向 頁9-22	中川委員
		金沢市は地下水の低下が問題になっている。手取川扇状地の先端部の地下水位の動向も調べた方がよい。	資料 - 3 手取川扇状地の地下水位の動向 頁9-22	藤委員
利水について	手取川の濁水の現状について	手取川の濁水は、H6年よりH4年の方が深刻だったのではない。	資料 - 3 手取川扇状地の地下水位の動向 頁5	中川委員

【意見等事項】

分類	内 容	備 考
全般について	水文学でいう流域という考えにとらわれることなく、手取川扇状地を含むさらに広い領域を見据えた流域圏という考え方で議論の事。	辻本会長
	環境を考える際には、流域という概念を水文学的に限定せず、川の流れている周りの地域の環境の柱として位置づけながら、考えていくべきである。	古池委員
	直轄区間のみでなく、流域全体に目を向けた計画とする事。	米田委員
	河川整備計画を策定する範囲での課題はある程度示されたが、流域や更に広域的に対応すべき課題について示す必要がある。それらを改善するための方策が河川整備計画に反映されるのではないか。	玉井委員
	相反する課題がいくつか示された。それらについて整理し、どこに折り合いをつけるか議論が必要である。	古池委員 米田委員
	何故、手取川がここにあるのか、成り立ちを考えながら議論していきたい。	藤委員
治水について	雨量の平年値は30年平均で示すべきである。	長谷川委員
	昔の災害（大昔）の経験も活かしながら計画の検討を進めるべきである。	長谷川委員
	鶴来町山ノ庄（明島）地先堤防は洪水が一番最初にあたる箇所であり、危険である。	富樫委員
	手取川は日本を代表する急流河川であるということを再認識した。これからの河川整備は急流河川の特徴を踏まえた整備を実施して欲しい。	三田委員
	河道内の河床の現状（堆積・低下）・霞堤等の治水施設の現状や、洪水時の情報の内容や伝達方法等、川の安全性に関することをもっと一般住民に分かり易く説明をすべきだ。ダム放流のサイレンは何を伝えたいのか不明確である。	小堀委員 三田委員
	熊田川合流点の改修に際しては、歴史的価値等を踏まえた整備を実施して欲しい。また、支川処理計画の考え方も示していく必要がある。	長谷川委員
	流域内の人口や土地の利用状況などについて、もっと詳細なデータが欲しい。そういうデータがないと現状を踏まえた検討ができない。	古池委員
環境について	魚は水涸れが起きては移動できないし、横断工作物等の障害物などがあっても移動ができず、魚にとって非常に棲みづらい状況である。しかし、下流部で生息するトミは地下水の自噴する場所でないと生息できないが、その地下水の涵養をするために現状では、横断工作物等により農業用水を取水している。非常に難しい問題を抱えている。	佐野委員
	鉄筋コンクリートの建物を造るようになってから手取川の砂はどんどんとられてしまい、石だらけになった。河原の昆虫はどんどん数が減り、中には絶滅したものもある。	富樫委員
	その場所で一度絶滅した種を移植・復元するのは容易ではない。	富樫委員

【意見等事項】

分類	内 容	備 考
環境について	自然環境、特に生物の評価には長期間のモニタリングが必要である。	中村(浩)委員
	適切な評価を行うためにも、事後調査等をしっかりやらないといけない。気象・水文等の観測も大事だが、同時に生物調査も行う必要がある。	中村(浩)委員
	日本的に鳥類の繁殖地が減少している。また、レッドデータブックのコアジサシ、オオタカ等たくさんの野鳥が利用している。	中村(博)委員
	昔は河原に砂場や石原などがあり、それにより植生も非常に多様であったが、近年は単純化（下流化）してきている。	古池委員
	上流から土砂を流すことは、生態系にとっても良い事である。良好な土砂環境を作っていって欲しい。	佐野委員
	日本の河川の植生の特徴をよく考えて議論していく必要がある。	古池委員
	川の本来の姿は水が流れているもの、水（維持流量）が流れているようにしてほしい。	宮崎委員
	稚魚の生育のためにワンドを作ってほしい、魚つき林も必要である。	三田委員
	水質は、水の中の生物のエネルギーであり栄養源であり、また、さまざまな影響を与える物質である。川の流れと水質によって様々な生態系が形成されており、水の質とは、河川の環境に非常に影響が大きいものである。	池本委員
	人間のみでなく、河川内の生物を考えた上で水質の目標を検討すべき。	池本委員
	水質は濃度は薄いが地球上を循環しており、非常に複雑である。	池本委員
河川利用について	後世の人々に川がこういう役割をしていたということを分かり易く伝えるためにも、これからは、整備と同時に歴史的な景観を残せるような配慮をして欲しい。	長谷川委員
	夢のある手取川・ロマンのある手取川。それを子供たちの教育の場として活かせるようにしてほしい。	平野委員
	野外学習に最適なフィールドであり、環境教育のプランも検討してほしい。	平野委員
	川のロマン性、物語性を高めてほしい。手取川や橋に魅力的な愛称をつけてはどうか。	三田委員
	聖なる川を中心とした流域全体をテーマパークとして整備してはどうか、上流・下流域では「水」を浮上させ、中流域では「火」の芸術である九谷焼を取り込み、川北町の火祭りとアンサンブルをなす。メリハリを明確に出していくと独創性にも繋がり、整備のテーマとなる。	三田委員
	手取川は自然豊かで、ダイナミックな本物志向の河川である。周辺の開発等により環境面・精神面への影響を危惧している。	三田委員
	今の子供たちは、川での遊び方を知らない。川への理解を深める、分かり易い教育・啓蒙が必要である。	米田委員
	当たり前の日本の道德、モラルが低下してきている。	三田委員